

生駒山上遊園地90周年記念イベント 「サンタクロースと一緒に作ろう～1日だけの山上クリスマス～」の開催



DATA

- 主な連携先・メンバー
生駒山上遊園地／関西大学総合情報学部岡田朋之ゼミ 生駒山上遊園地イベントチーム
- 活動地域
奈良県生駒市
- 活動期間
2019年度
- 活動資金
生駒山上遊園地(会場施設の提供)／関西大学総合情報学部実験実習材料費(ワークショップ材料費、チラシ印刷費)

活動の目的

- 1 冬季休業期間前の営業日は例年場内が閑散とすることが多いため、地元からの集客をはかる
- 2 元々クリスマスに因んだイベントがあまり開催されない地域であるため、親子で楽しめるイベントを企画する



連携にいたる経緯

現在奈良県唯一の遊園地である生駒山上遊園地は、例年冬季休業前の最終営業日に来場者が非常に少ないことが悩みであったが、開園90周年を迎えた2019年の最終営業日である12月1日に、少しでも集客を図ることのできる企画を求めている。

活動内容

例年暮れのシーズンに、奈良県ではクリスマスに因んだイベントがほとんど開催されないため、親子で楽しめる機会に恵まれていないという特性があった。これに着目したイベント制作チームは、遊園地内の野外劇場を利用したクリスマスアイテムを親子で作るワークショップの開催を企画・実行した。

イベント当日は、クリスマスのリースの製作、オーナメントづくり、スノードームの製作の3つのワークショップを用意し、完成するとサンタクロースに扮装したゼミ生と一緒にインスタントカメラによるステッカー撮影ができるという企画を提供した。事前の宣伝活動として、A4判表裏フルカラー印刷のチラシを1,000部以上印刷し、周辺の幼稚園・保育所での設置を依頼するとともに、地元地域の家庭へのポスティングをおこなった。また、専用のInstagramアカウントによるSNSを通じた告知にも務めた。

結果として3つのワークショップは、最も早い時間帯のものを除いてすべて定員を満たし、参加者へのアンケートからも、満足度の高さが裏付けられた。

活動の成果

- 1 各ワークショップはほぼ満員となり、参加者の満足度も高かった
- 2 印刷物やSNSを用いた周辺地域への事前の宣伝活動が一定の効果を上げたことがアンケートから判明した
- 3 連携先の遊園地関係者からの評価をいただいた

今後の課題・目標

- 1 企画制作の期間が非常にタイトで、十分な宣伝の準備と時間が得られなかった
- 2 イベント当日の人員配置や指示の流れについての計画策定が充分ではなかったことで、参加者への対応などに混乱が生じていた

教員紹介



■ 総合情報学部 教授

岡田 朋之
Tomoyuki Okada

専門はメディア論。情報メディアの革新が人々の日常生活とどう関わっていくかについて、主にスマートフォンやSNSなどを通じたモバイルコミュニケーションの変化の側面から研究している。ゼミでは「メディアをつくる、社会を考える」をテーマに置き、メディアやイベント等の制作を踏まえて社会の問題を考察することを課している。